

名古屋税関管内の輸入品から

『紅茶』の輸入



❁ **2017年の輸入額が過去最高!**

❁ **輸入数量、金額ともに全国シェア1位!!**

5月も半ばを過ぎ、暑さを感じる日も多くなり、冷たい飲み物が欲しいと思うことが増えてきました。アイスコーヒーや炭酸飲料など、好みは人それぞれですが、アイスティーを飲まれる方も多いのではないのでしょうか。最近ではスーパーなどの小売店の紅茶売り場で、水出しですぐに作ることができるティーバッグなど多種多様な商品が置かれるようになり、消費者の選択の幅が広がっています。

紅茶の生産は全国各地で行われていますが、その生産量はわずかで、国内で消費されている紅茶の大半が輸入されたものです。

管内における紅茶の輸入実績を見ると、2017年の輸入額が過去最高¹となりました。また、数量・金額ともに全国の半分以上のシェアを占めています。

そこで、今回は名古屋税関管内の輸入品から「紅茶²」を取り上げたいと思います。

¹ 本資料でいう「過去最高」とは、貿易統計がデータで比較可能な1979年以降の実績を使用したものです。

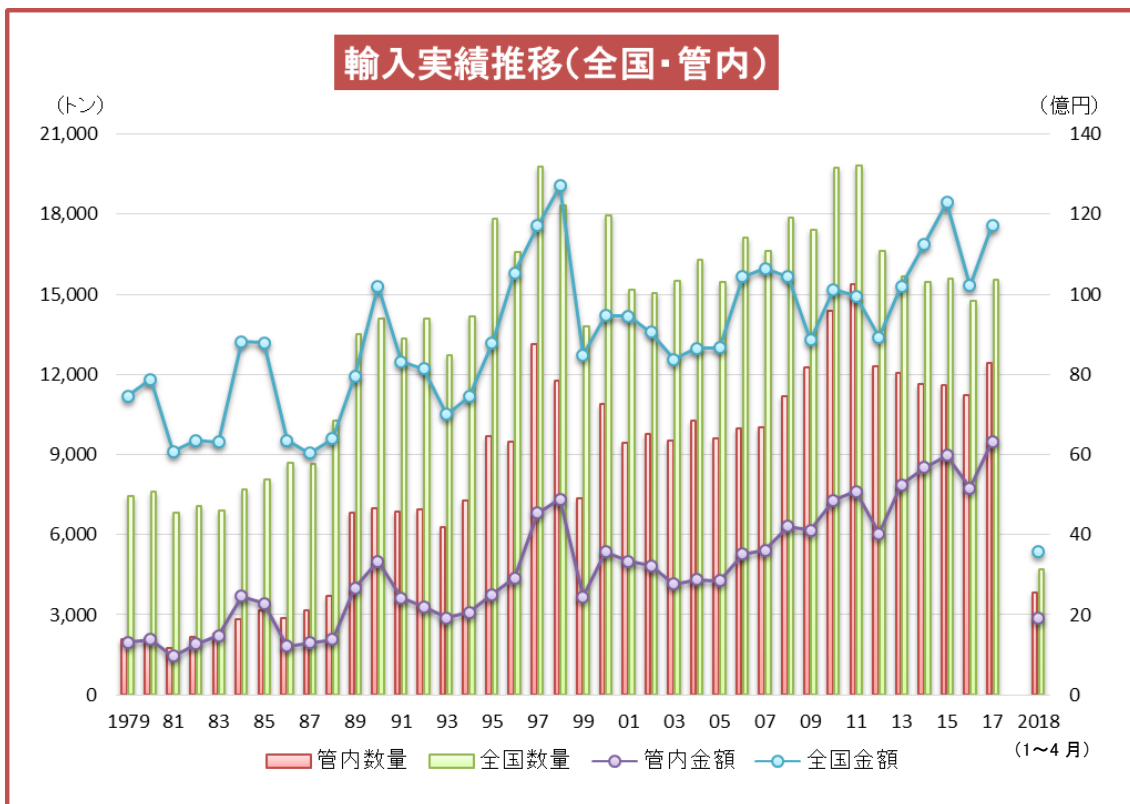
² 「紅茶」とは輸入概況品コード「0150501」をいいます。

輸入実績推移

2017年の管内における紅茶の輸入実績は、

- ・数量 1万2,411トン (全国比 79.9%)
- ・金額 63億2,032万円 (全国比 53.9%)

となり、数量については過去4位、金額については過去最高となりました。特に数量については、全国税関別割合で約8割となっており、管内のシェアが高いことがわかります。



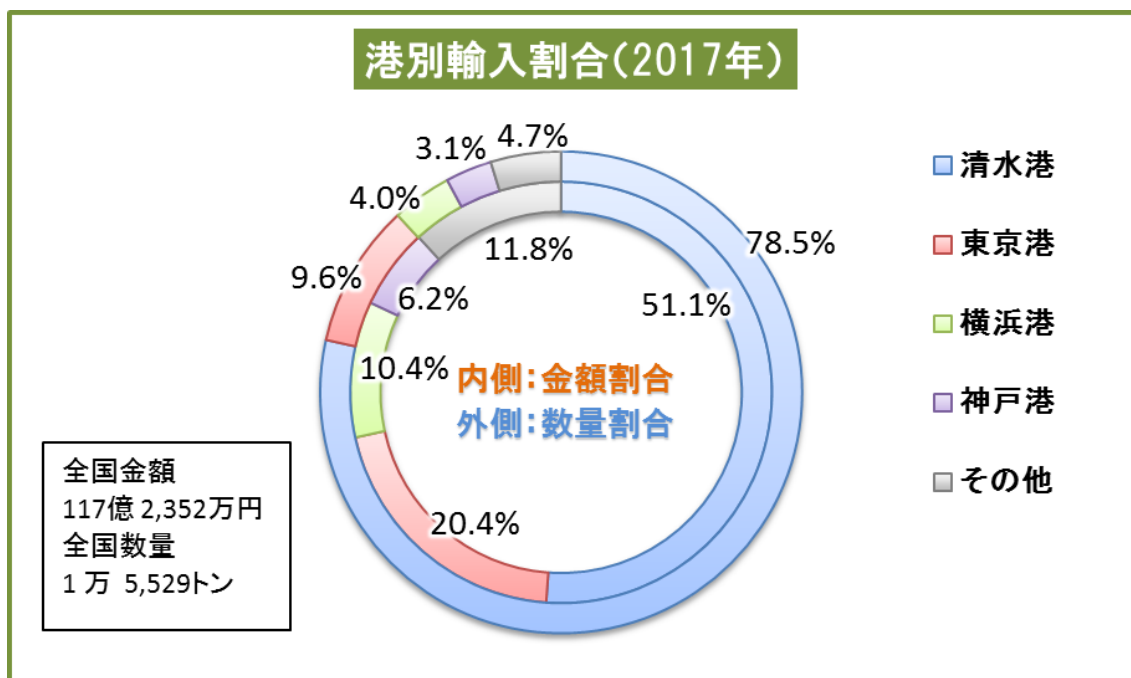
〇紅茶の歴史

- ・中国では有史以前から、お茶を不老長寿の霊薬としており、飲み物として一般化したのは6世紀以降と言われています。中国のウーロン茶系のお茶がヨーロッパ人の中で人気となり、消費者の嗜好に合わせて発酵を進めるうちに、強く発酵した紅茶が誕生したそうです。

参考：日本紅茶協会 HP

港別輸入実績

全国の港別輸入割合を見ると、2017年は数量・金額ともに清水港がトップとなりました。清水港の数量は全国の約8割、金額については約5割を占めています。



清水港において輸入される紅茶には特徴があります。紅茶の輸入は「小売用」と「原料用」³に分けられますが、清水港では輸入される紅茶のうち原料用の割合が9割以上となっています。

港別の「小売用」・「原料用」紅茶の輸入数量 (2017年) (単位: トン)					
港	小売用紅茶		原料用紅茶		全体に占める原料用の割合
	数量	全国比	数量	全国比	
清水港	153	9.3%	12,037	86.7%	98.7%
東京港	531	32.4%	966	7.0%	64.5%
横浜港	431	26.3%	193	1.4%	30.9%
神戸港	188	11.4%	297	2.1%	61.3%
その他	338	20.6%	394	2.8%	53.8%

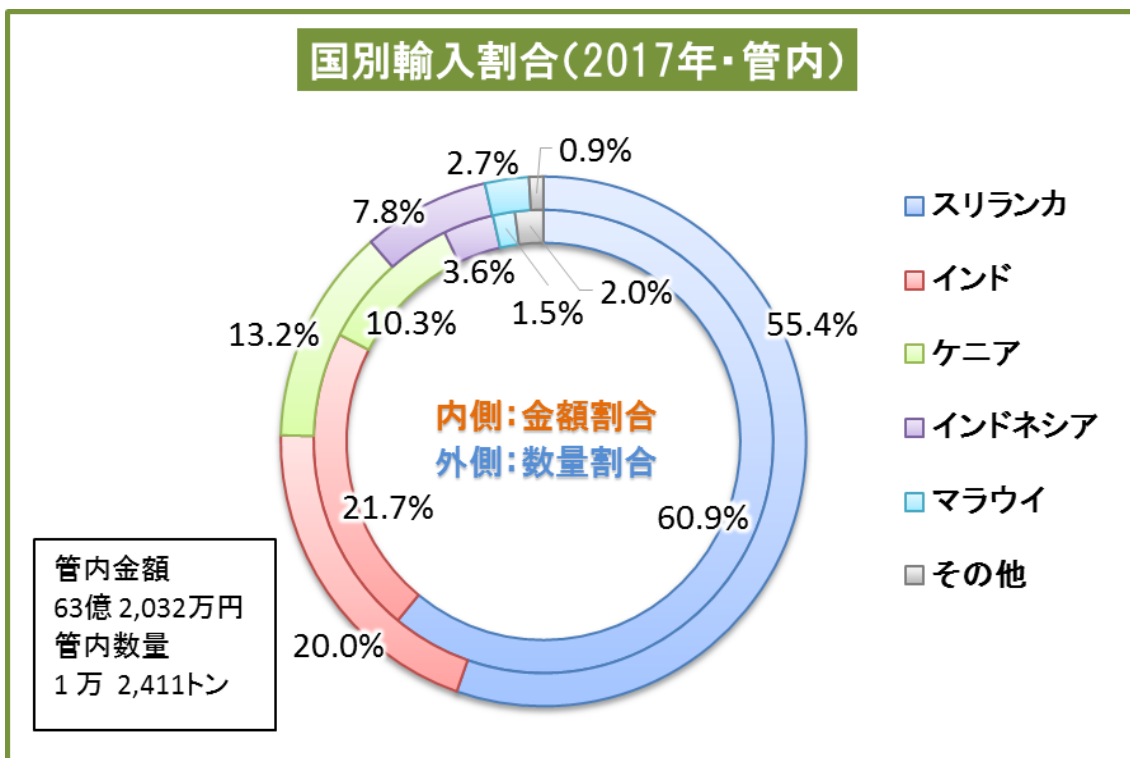
³ 「紅茶」を輸入統計品目番号で表すと「0902.30-010 (正味重量が3キログラム以下の直接包装にしたもの) (小売用)」と「0902.40-210 (その他の紅茶)」(原料用)になります。

静岡県は緑茶の産地として有名ですが、緑茶用の加工機械を紅茶用に転用できたことから、紅茶の製造工場が多くあります。このように茶葉を加工できる環境が整っていることから、原料用の紅茶が多く輸入されているようです。原料用の紅茶は国内においてティーバッグなどに加工されるほか、ペットボトル飲料の原料として多く使用されています。

ちなみに清水港は紅茶や緑茶を含めた粉末などの「インスタントティー⁴」の輸入も多く、2017年における全国の輸入量のうち清水港が約4割⁵を占めています。

国別輸入実績

管内における紅茶の国別輸入割合は、2017年は数量・金額ともに1位スリランカ、2位インド、3位ケニアという順になっています。スリランカやインドが紅茶の産地であることは有名ですが、管内においてはケニアからも多く輸入されています。

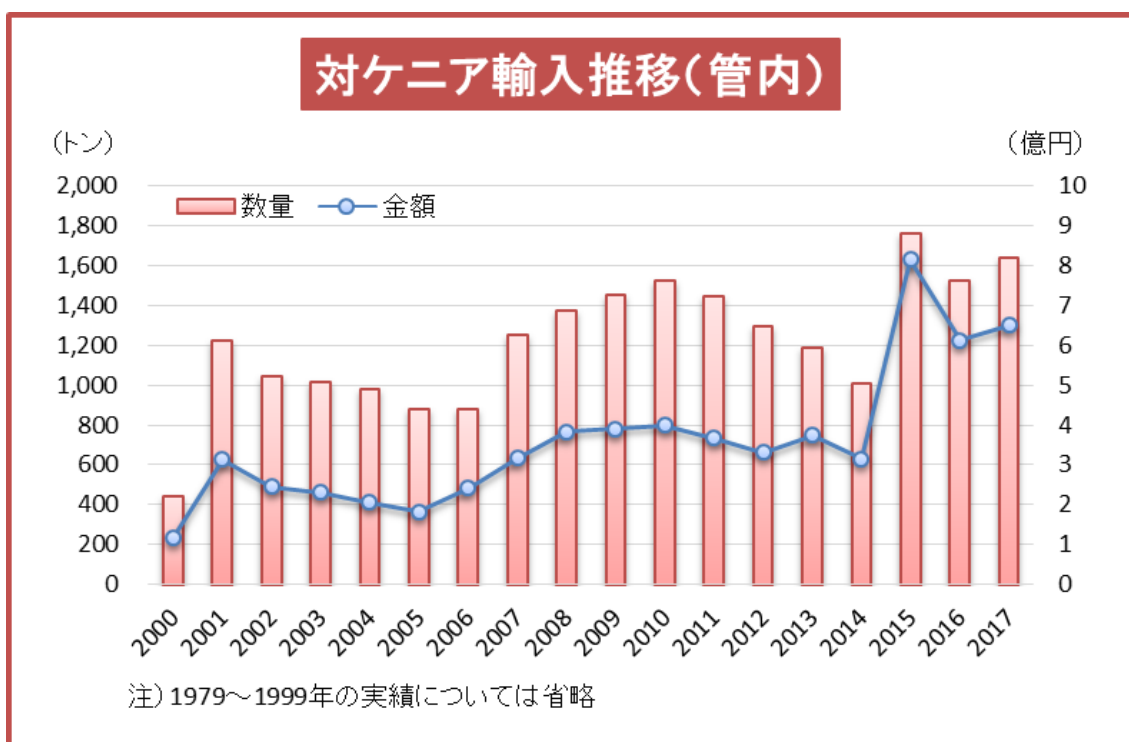


⁴ 「インスタントティー」とは、輸入統計品目番号「2101.20-110」をいいます。

⁵ 「インスタントティー」の2017年における港別輸入量割合の順位は、
1位 清水港 (42.2%)、2位 東京港 (19.4%)、3位 横浜港 (15.3%)、
4位 名古屋港 (7.6%) となっています。

ケニア産の紅茶はあまりなじみがないかもしれませんが、実はインドに次ぐ紅茶の生産国と言われています。一般に、茶葉の栽培には比較的温暖で、雨量が一定以上の気候が適していると言われています。赤道直下に位置するケニアは暑い国というイメージがありますが、ケニアの中央部には標高 5,000m を超えるケニア山があり、周辺の高地が茶葉の栽培に適した気候となっています。

管内における輸入実績は下のグラフから分かるように、2015 年から特に増加しています。要因としては、ケニア産の茶葉が加工しやすいように改良され、取り扱う量が増えたことなどが挙げられます。



コラム② ○紅茶の美味しい淹れ方

- 紅茶は、使う水の種類によって味や香りが変わるそうです。ストレートティーには軟水が合い、ミルクティーは硬水を使うと良いと言われています。紅茶の本場であるイギリスの水は硬水であることが多く、ミルクを入れて飲むのが好まれています。

終わりに

近年の全国における紅茶の輸入量は一定の水準を維持していることから、国内の紅茶需要は堅調に推移していることが分かります。様々な種類のティーバッグ商品やペットボトル紅茶飲料などが販売されており、消費者の需要に合わせて今後もいろいろな商品が発売されていくと予想されます。紅茶の中でもティーバッグやリーフティーは「セルフメイドビバレッジ」と呼ばれ、淹れるために自分でお湯を沸かす必要があるなど、ペットボトル飲料などに比べて手間がかかるイメージがあります。しかし、短時間の水出しで風味や味が出るような、手軽に利用できる商品も発売されています。また、紅茶にはポリフェノールなどが含まれており、健康面においても注目されています。今後も紅茶の需要は継続していくと考えられます。



取材協力：ユニリーバ・ジャパン株式会社

参考情報：日本紅茶協会「紅茶の歴史」、「2017年紅茶業界10大ニュース」、

JETRO「アフリカ産紅茶」

資料編

輸入推移(管内・全国)

《名古屋税関管内》

(単位:KG、千円)

《全国》

(単位:KG、千円)

年	数量		全国比	金額		全国比	数量	前年比	金額		前年比
	前年比	全国比		前年比	全国比				前年比	全国比	
1979年	2,082,332	—	28.0%	1,309,968	—	17.6%	7,431,190	—	7,462,507	—	
1980年	2,133,686	102.5%	28.1%	1,381,785	105.5%	17.5%	7,599,347	102.3%	7,879,531	105.6%	
1981年	1,753,944	82.2%	25.7%	969,358	70.2%	16.0%	6,836,078	90.0%	6,074,040	77.1%	
1982年	2,184,143	124.5%	30.9%	1,271,592	131.2%	20.0%	7,076,982	103.5%	6,347,040	104.5%	
1983年	2,292,456	105.0%	33.3%	1,479,375	116.3%	23.4%	6,885,913	97.3%	6,317,641	99.5%	
1984年	2,831,339	123.5%	36.9%	2,467,827	166.8%	28.0%	7,674,294	111.4%	8,812,411	139.5%	
1985年	3,162,571	111.7%	39.1%	2,280,028	92.4%	25.9%	8,086,273	105.4%	8,787,101	99.7%	
1986年	2,882,825	91.2%	33.2%	1,218,893	53.5%	19.2%	8,691,397	107.5%	6,360,286	72.4%	
1987年	3,147,715	109.2%	36.3%	1,293,503	106.1%	21.5%	8,663,886	99.7%	6,028,548	94.8%	
1988年	3,719,142	118.2%	36.2%	1,378,408	106.6%	21.6%	10,260,644	118.4%	6,392,786	106.0%	
1989年	6,803,527	182.9%	50.3%	2,675,252	194.1%	33.6%	13,515,668	131.7%	7,959,305	124.5%	
1990年	6,988,694	102.7%	49.6%	3,341,442	124.9%	32.8%	14,102,299	104.3%	10,196,950	128.1%	
1991年	6,842,616	97.9%	51.3%	2,420,907	72.5%	29.1%	13,344,993	94.6%	8,321,516	81.6%	
1992年	6,932,706	101.3%	49.2%	2,204,348	91.1%	27.1%	14,093,859	105.6%	8,142,982	97.9%	
1993年	6,293,213	90.8%	49.6%	1,921,602	87.2%	27.4%	12,698,798	90.1%	7,008,239	86.1%	
1994年	7,283,354	115.7%	51.3%	2,059,774	107.2%	27.7%	14,187,498	111.7%	7,446,538	106.3%	
1995年	9,700,197	133.2%	54.4%	2,500,553	121.4%	28.5%	17,833,776	125.7%	8,772,104	117.8%	
1996年	9,496,265	97.9%	57.3%	2,925,549	117.0%	27.8%	16,585,491	93.0%	10,528,380	120.0%	
1997年	13,149,994	138.5%	66.5%	4,540,244	155.2%	38.8%	19,783,307	119.3%	11,709,483	111.2%	
1998年	11,775,610	89.5%	64.2%	4,881,802	107.5%	38.4%	18,339,828	92.7%	12,703,274	108.5%	
1999年	7,371,041	62.6%	53.4%	2,456,266	50.3%	29.0%	13,807,034	75.3%	8,483,698	66.8%	
2000年	10,892,489	147.8%	60.7%	3,564,193	145.1%	37.6%	17,949,556	130.0%	9,471,020	111.6%	
2001年	9,446,934	86.7%	62.2%	3,331,637	93.5%	35.3%	15,180,805	84.6%	9,449,646	99.8%	
2002年	9,761,794	103.3%	65.0%	3,227,416	96.9%	35.6%	15,029,326	99.0%	9,055,515	95.8%	
2003年	9,509,734	97.4%	61.4%	2,765,157	85.7%	33.0%	15,500,210	103.1%	8,377,689	92.5%	
2004年	10,251,222	107.8%	62.9%	2,882,976	104.3%	33.3%	16,298,514	105.2%	8,650,823	103.3%	
2005年	9,597,173	93.6%	62.1%	2,853,039	99.0%	32.9%	15,444,641	94.8%	8,667,299	100.2%	
2006年	9,974,624	103.9%	58.2%	3,513,355	123.1%	33.6%	17,127,898	110.9%	10,444,833	120.5%	
2007年	10,012,770	100.4%	60.3%	3,611,428	102.8%	33.9%	16,602,722	96.9%	10,644,148	101.9%	
2008年	11,166,480	111.5%	62.5%	4,205,275	116.4%	40.3%	17,857,658	107.6%	10,442,902	98.1%	
2009年	12,261,883	109.8%	70.5%	4,116,388	97.9%	46.5%	17,399,452	97.4%	8,855,024	84.8%	
2010年	14,390,771	117.4%	72.8%	4,857,315	118.0%	48.0%	19,757,184	113.6%	10,116,128	114.2%	
2011年	15,363,010	106.8%	77.6%	5,083,099	104.6%	51.1%	19,802,407	100.2%	9,948,374	98.3%	
2012年	12,289,793	80.0%	73.9%	4,034,509	79.4%	45.2%	16,638,454	84.0%	8,932,958	89.8%	
2013年	12,050,285	98.1%	77.0%	5,242,704	129.9%	51.4%	15,648,332	94.0%	10,200,806	114.2%	
2014年	11,657,293	96.7%	75.5%	5,671,519	108.2%	50.4%	15,443,292	98.7%	11,248,078	110.3%	
2015年	11,587,823	99.4%	74.3%	5,986,608	105.6%	48.7%	15,586,272	100.9%	12,288,029	109.2%	
2016年	11,235,423	97.0%	76.1%	5,162,663	86.2%	50.6%	14,759,663	94.7%	10,212,031	83.1%	
2017年	12,411,039	110.5%	79.9%	6,320,321	122.4%	53.9%	15,529,187	105.2%	11,723,523	114.8%	
2018年1~4月	3,810,963	108.5%	80.9%	1,912,928	102.3%	53.5%	4,709,228	104.1%	3,574,223	101.9%	

管内における対ケニア輸入推移

(単位:KG、千円)

年	数量	前年比	金額	前年比
1979年	140,375	—	77,165	—
1980年	113,706	81.0%	70,766	91.7%
1981年	127,835	112.4%	66,306	93.7%
1982年	104,837	82.0%	59,914	90.4%
1983年	215,213	205.3%	122,824	205.0%
1984年	219,919	102.2%	199,980	162.8%
1985年	328,039	149.2%	256,633	128.3%
1986年	252,199	76.9%	102,187	39.8%
1987年	311,078	123.3%	113,403	111.0%
1988年	303,556	97.6%	85,909	75.8%
1989年	455,288	150.0%	130,272	151.6%
1990年	235,120	51.6%	80,980	62.2%
1991年	249,562	106.1%	70,052	86.5%
1992年	461,299	184.8%	127,759	182.4%
1993年	398,090	86.3%	99,495	77.9%
1994年	456,958	114.8%	99,855	100.4%
1995年	809,272	177.1%	144,689	144.9%
1996年	647,329	80.0%	131,367	90.8%
1997年	1,091,051	168.5%	290,503	221.1%
1998年	927,126	85.0%	309,307	106.5%
1999年	425,189	45.9%	107,655	34.8%
2000年	438,939	103.2%	116,362	108.1%
2001年	1,220,253	278.0%	312,584	268.6%
2002年	1,044,228	85.6%	245,746	78.6%
2003年	1,018,926	97.6%	231,050	94.0%
2004年	979,757	96.2%	205,053	88.7%
2005年	878,022	89.6%	183,061	89.3%
2006年	882,071	100.5%	242,063	132.2%
2007年	1,253,287	142.1%	316,344	130.7%
2008年	1,374,427	109.7%	382,426	120.9%
2009年	1,455,806	105.9%	390,231	102.0%
2010年	1,526,256	104.8%	399,162	102.3%
2011年	1,448,296	94.9%	367,373	92.0%
2012年	1,297,888	89.6%	331,091	90.1%
2013年	1,183,906	91.2%	374,181	113.0%
2014年	1,004,671	84.9%	315,265	84.3%
2015年	1,764,214	175.6%	814,394	258.3%
2016年	1,523,590	86.4%	613,085	75.3%
2017年	1,640,677	107.7%	649,778	106.0%

港別輸入実績(2017年)

(単位:KG、千円)

港	数量			金額		
	数量	前年比	全国比	金額	前年比	全国比
清水	12,190,075	110.4%	78.5%	5,994,643	122.9%	51.1%
東京	1,497,475	93.4%	9.6%	2,395,365	99.3%	20.4%
横浜	624,314	91.7%	4.0%	1,222,567	140.6%	10.4%
神戸	484,747	57.3%	3.1%	725,795	80.0%	6.2%
成田空港	223,482	145.2%	1.4%	511,011	140.7%	4.4%
名古屋	185,590	118.3%	1.2%	293,528	116.5%	2.5%
千葉	113,361	137.6%	0.7%	246,201	130.8%	2.1%
大阪	77,647	127.7%	0.5%	143,361	128.0%	1.2%
関西空港	17,887	77.6%	0.1%	60,122	82.3%	0.5%
仙台塩釜	25,154	130.7%	0.2%	32,088	137.8%	0.3%
中部空港	10,044	105.7%	0.1%	23,919	105.8%	0.2%
博多	14,813	104.5%	0.1%	23,500	130.6%	0.2%
川崎	18,936	92.3%	0.1%	15,313	26.5%	0.1%
羽田空港	3,219	196.0%	0.0%	12,260	205.2%	0.1%
御前崎	25,330	93.1%	0.2%	8,231	68.7%	0.1%
福岡空港	2,670	303.8%	0.0%	5,563	169.0%	0.0%
那覇	6,975	198.8%	0.0%	4,700	210.6%	0.0%
広島空港	1,580	103.0%	0.0%	1,689	100.1%	0.0%
長崎三重式見	3,300	全増	0.0%	1,611	全増	0.0%
長崎空港	880	全増	0.0%	747	全増	0.0%
新千歳空港	408	172.2%	0.0%	536	31.4%	0.0%
伊万里	300	全増	0.0%	496	全増	0.0%
広島	1,000	177.9%	0.0%	277	98.6%	0.0%
全国	15,529,187	105.2%	100.0%	11,723,523	114.8%	100.0%

管内における国別輸入実績(2017年)

(単位:KG、千円)

国	数量			金額		
	数量	前年比	構成比	金額	前年比	構成比
スリランカ	6,870,208	109.4%	55.4%	3,851,252	135.8%	60.9%
インド	2,484,349	98.5%	20.0%	1,371,538	99.6%	21.7%
ケニア	1,640,677	107.7%	13.2%	649,778	106.0%	10.3%
インドネシア	971,184	152.0%	7.8%	224,779	133.8%	3.6%
マラウイ	336,340	224.9%	2.7%	97,485	268.2%	1.5%
中華人民共和国	92,350	84.7%	0.7%	50,583	80.4%	0.8%
スイス	5,699	116.1%	0.0%	45,815	112.4%	0.7%
アメリカ合衆国	830	115.4%	0.0%	8,137	116.8%	0.1%
ドイツ	3,255	215.6%	0.0%	5,763	249.4%	0.1%
エジプト	640	50.0%	0.0%	5,208	48.8%	0.1%
英国	2,452	55.8%	0.0%	4,151	59.7%	0.1%
ネパール	2,016	2371.8%	0.0%	3,445	1028.4%	0.1%
カナダ	350	全増	0.0%	800	全増	0.0%
マレーシア	192	88.9%	0.0%	570	99.5%	0.0%
ペルー	450	全増	0.0%	528	全増	0.0%
フランス	47	全増	0.0%	489	全増	0.0%
世界	12,411,039	110.5%	100.0%	6,320,321	122.4%	100.0%

税関ロゴマーク

税関ロゴマークのデザインは、航空機、船、ゲート（門）を組み合わせて構成されています。

ロゴマークにある、ゲート（門）の中の秤は公平を、鍵は保全を意味し、税関の役割を図で表現するとともに、3つの桜が税関の使命（安全・安心な社会の確保、関税等の適正・公平な課税、貿易の円滑化）を示しています。



税関イメージキャラクター『カスタム君』

『カスタム君』は、麻薬探知犬をモデルとした税関イメージキャラクターです。

名前は、英語で税関をCUSTOMS（カスタムス）ということから名付けられました。

密輸防止の街頭キャンペーンや税関展、広報ビデオやパンフレットなど、様々な場において、税関の広報活動に貢献しています。



本資料を引用する場合、名古屋税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問い合わせは、名古屋税関 調査部 調査統計課（Tel052-654-4176）までお願いします。

また、貿易統計は名古屋税関 HP でもご覧いただけます。

《 <http://www.customs.go.jp/nagoya/> 》